



献血のお知らせ



* 26名以上のご協力を必要としています！

12月7日(木)

受付時刻 13:30~16:00

池田病院

◆医療機関に安定的に血液をお届けするために献血バス1台あたり52名以上の400mL献血のご協力を必要としております。冬期は、体調を崩される方が多くなったり、インフルエンザの流行などで血液確保が困難となります。安全な輸血用血液製剤を安定的に確保する為、皆様お誘い合わせの上、献血のご協力をお願いします。

鹿屋市献血推進協議会

献血当日のお願い

- 十分な睡眠、食事をとられてご来場ください。
- 3日以内に出血を伴う歯科治療を受けた方は献血をご遠慮いただいております。
- 胃腸薬、花粉症などの抗アレルギー薬、血圧を下げる薬などは、当日の服用でも献血が可能な場合があります。
(薬の名前がわかるものを会場にご持参いただきますとお調べいたします。)

400mL献血の基準

年齢	男性17~69歳※ 女性18~69歳※
体重	男性・女性とも 50kg以上

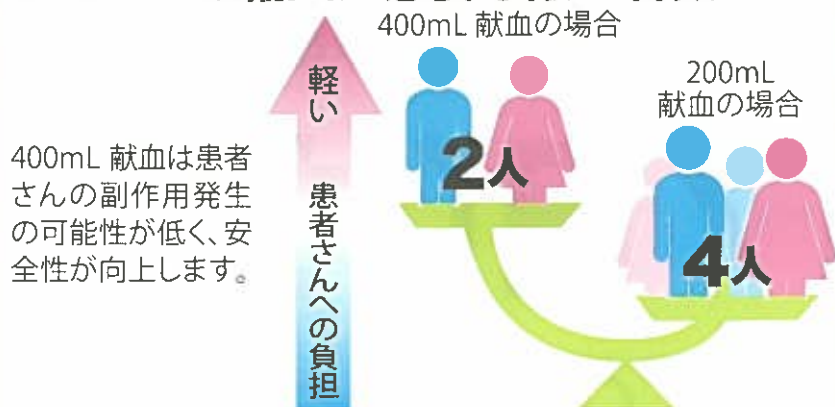
※65歳以上の献血については、60~64歳の間に献血経験がある方に限ります。

必ず裏面もご覧ください

400mL献血が必要です



800mLの輸血に必要な献血者数



県内の医療機関で使用される赤血球製剤の約98%は、400mL献血由来の血液です。輸血の安全性を高めるため(左図参照)、基準を満たしている方には、特に400mL献血をお願いしています。

200mL献血由来の血液は、主に小児や低体重の方などに使用されています。

海外旅行について

- 海外から**帰国(入国)後4週間以内**の方は献血をお断りしています。
- 国によっては4週間経過していてもお断りさせていただく場合もございます。詳しくは、お問い合わせ下さい。

検査サービス通知(血液検査結果)を、健康管理にお役立てください。

希望される方へ後日ハガキにて**7項目の生化学検査成績**(ALT、コレステロールなど)、**8項目の血球計数検査成績**(赤血球数、白血球数、血小板数など)をお知らせしています。

献血についての問い合わせ先

●献血プラザかもいけクロス

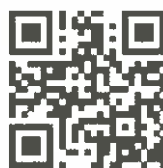
鹿児島市鴨池新町1番5号
☎099-257-3141
定休日 木曜日(木曜が祝日であっても定休)
受付 9:00~12:00(成分 11:30)
13:00~17:00(成分 16:30)

●献血ルーム・天文館

鹿児島市東千石町13-16 天文館ビル2F
☎099-222-6511
定休日 金曜日(金曜が祝日であっても定休)
受付 9:30~13:00(成分 12:00)
14:00~17:30(成分 17:00)

●鹿児島県の献血バスの行先

<http://www.bc9.org>



●鹿児島県赤十字血液センター

鹿児島市鴨池新町1番5号
☎099-257-3141

年末年始(12/29~1/3)については、毎年開所日が変わりますので、おおむね1ヶ月前にご案内いたします。

400mL製剤の供給状況／献血状況
平成29年11月1日～15日

- ・輸血本数 1,914本
- ・献血者数 1,729人

H28年度は、4・6・7・9・10・1・2・3月
県内の献血で県内の輸血を支えること
ができました。

献血ご協力をお願い

県内では、1年間に約28,000人の方が輸血を受けられており、毎日多くの血液が使用されております。

しかし、輸血用血液製剤は、人工的につくれず、赤血球製剤は、**21日間**しか持ちません。昨年度は、年間で赤血球製剤を約46,000本を病院にお届けしております。

バス1台当たりで、52人以上の献血へのご協力が必要です。

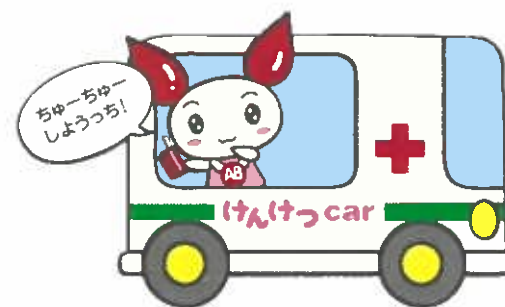
皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

平成29年 11月15日 現在
献血バス1台当たり 41.2人

バス1台につき、**あと11人**必要です
不足分は配車台数を増やすことで補っております

こちらで、 26人以上のご協力をお願いします

※お薬に関する基準が一部緩和されています(裏面をご覧ください)



当日はお薬の名前の分かるもの（お薬やお薬手帳）をご持参ください

◆ 薬の服用について ◆

◆薬を飲んでいる方は、次の1～3にご注意されてください。



1. 当日服用していても献血できる薬

- ① ビタミン剤（貧血治療薬・ビタミンKをの除く）
- ② ミネラル剤（貧血治療薬を除く）
- ③ 漢方薬
- ④ 高尿酸血症治療薬……痛風薬
- ⑤ 非ステロイド系抗アレルギー薬 例：鼻炎・花粉症薬など
- ⑥ 抗ヒスタミン薬（セレスタミンを除く） 例：鼻炎・花粉症薬など
- ⑦ 高脂血症治療薬（エバデール、ロトリガを除く）
- ⑧ 胃腸薬
- ⑨ 去痰剤
- ⑩ 予防薬としての抗潰瘍薬
- ⑪ 低用量ピル
- ⑫ 少量の女性ホルモン等（更年期障害や月経困難症等の補充療法）
- ⑬ 甲状腺疾患治療薬【チラージン・チラージンSなど】
- ⑭ 局所投与の薬物（点鼻・点眼・吸入・外用（塗り薬・貼り薬））
- ⑮ 降圧剤（血圧がほぼ正常域にコントロールされている場合）
- ⑯ 利尿薬（降圧剤としての内服の場合に限る）
- ⑰ 緩下剤
- ⑱ サプリメント



2. 当日服用していなければ献血できる薬（前日までの服用は可）

- ① 内服用筋弛緩薬
- ② 睡眠薬・抗不安薬・マイナートランキライザー
- ③ 消炎酵素剤
- ④ 前立腺肥大症治療薬（アボダート・プロスカール・プロベシアを除く）
- ⑤ 利胆薬
- ⑥ 高脂血症治療薬（エバデール、ロトリガ）
- ⑦ 市販薬・抗菌剤のっていない風邪薬



3. 服用中止から3日間は献血できない薬

- ① 抗精神薬（マイナートランキライザーを除く）
- ② 抗真菌薬（抗生物質・合成抗菌薬）・抗真菌薬・抗ウイルス薬・抗結核薬
- ③ 止痢薬
- ④ 非ステロイド系抗炎症薬・風邪薬
- ⑤ 痛風発作治療薬（コルヒチン）
- ⑥ 喘息治療薬
- ⑦ 花粉症治療薬（ステロイド系抗アレルギー薬）（セレスタミン）
- ⑧ 利尿薬（ただし、降圧剤としての内服利用は1.に準ずる）
- ⑨ 事後に服用する緊急ピル（中用量ピルを含む）

◆以下の薬を内服している場合は献血できません。

（原疾患治療後、改めて採血の可否を判断）

- ① 抗けいれん薬
- ② 抗凝固薬・血小板凝集抑制薬
- ③ 抗甲状腺薬
- ④ 抗不整脈薬
- ⑤ 冠拡張薬（降圧のみを目的とする場合は1.に準ずる）
- ⑥ 強心薬
- ⑦ 糖尿病薬
- ⑧ 治療用ホルモン薬（ステロイドなど）……1ヶ月献血延期
- ⑨ 免疫抑制剤……1ヶ月献血延期
- ⑩ 抗癌剤……無期献血不可
- ⑪ 乾癬治療薬（チガソン）：無期献血不可（ソリアタン）：3年献血延期
- ⑫ 前立腺肥大症治療薬（アボダート）……6ヶ月献血延期



◎ 献血にご協力いただけるかどうかの判断は、お薬だけでなく、ご本人の体調、服薬目的、症状等を考慮して検診医が最終的な判断を行いますので、ご理解ください。

◎ ワクチンの接種等については、以下の期間、献血をご遠慮いただいています。

接種後24時間	インフルエンザ、日本脳炎、コレラ、A型肝炎、肺炎球菌、百日ぜき、トキソイド 破傷風等の不活化ワクチン
接種後2週間	B型肝炎ワクチン
接種後4週間	おたふくかぜ、風疹、BCG等の弱毒生ワクチン
接種後2カ月間	天然痘ワクチン
投与後3カ月	破傷風、蛇毒、ガスえそ、ボツリヌスの抗血清
投与後6カ月間	抗HBs人免疫グロブリンを単独または併用した方
接種後1年間	狂犬病ワクチン（動物にかまれた後）



お願い!



輸血を受けた患者さんに深刻な状況をもたらす場合がありますので「責任ある献血」をお願いします。

<以下に該当する方は献血をご遠慮ください>

- ① 3日以内に出血を伴う歯科治療（抜歯, 歯石除去等）を受けた方
- ② 4週間以内に海外から帰国（入国）した方
- ③ 1ヵ月以内にピアスの穴をあけた方
- ④ エイズ検査が目的の方
- ⑤ 6ヵ月以内に下記に該当する方
 - (a) 不特定の異性または新たな異性と性的接触があった
 - (b) 男性どうしの性的接触があった
 - (c) 麻薬, 覚せい剤を使用した
 - (d) 上記(a)～(c)に該当する人と性的接触をもった
- ⑥ 今までに下記に該当する方
 - (a) 輸血（自己血を除く）や臓器の移植を受けた
 - (b) ヒト由来プラセンタ注射薬を使用した
 - (c) 梅毒, C型肝炎, マラリア, シャーガス病にかかった
- ⑦ 下記のいずれかに該当し, 中南米諸国（メキシコを含むがカリブ海諸国は除く）を離れてから6ヵ月以上経過していない方（6ヵ月以上経過している方は職員へお申し出ください。）
 - (a) 中南米諸国で生まれた, または育った
 - (b) 母親または母方の祖母が中南米諸国で生まれた, または育った
 - (c) 中南米諸国に連続して4週間以上滞在, または居住したことがある

<以下に該当する方は職員・検診医にお申し出ください>

- ① 3日以内に薬を服用, 使用した方
- ② 1年以内に予防接種を受けた方
- ③ 海外滞在歴について
 - (a) 3年以内に外国（ヨーロッパ, 米国, カナダを除く）に滞在した方
 - (b) 昭和55年以降, ヨーロッパ, サウジアラビアに通算1ヵ月以上滞在した方



上記に該当されない方でも, 検診医の判断で献血をお断りすることがあります。



献血前にお読みください

献血前に

- お名前、生年月日、住所、電話番号等は正確にお答えください。
- ご本人の確認のため、運転免許証などの提示をお願いすることがあります。
- 問診項目には正確にお答えください。事実と異なる回答をされた場合、輸血を受けた患者さんに深刻な状況をもたらす場合があります。**
- 献血後に高所作業や激しいスポーツ、自動車の運転等をされる方は献血前にお知らせください。特に乗り物の運転をされる方は、献血後に十分な休憩（30分以上）を取っていただく必要があります。
- 副作用予防のため、献血前に水分（スポーツドリンク等）を補給してください。

献血時は

- 200mL・400mL献血では10分から15分位、成分献血では体重等に応じて採血量（上限600mLまで）が異なりますので、40分から90分位の採血時間がかかります。
- 血圧や血色素量（ヘモグロビン濃度）を事前に測定します。
- 採血針や採血バッグ等は、お一人ずつ使い捨てとなっています。
- 採血装置の不具合等により、採血が中断されたり、いただいた血液が輸血に使用できなくなることがあります。

献血に伴う副作用と注意

- 針を刺した時に、強い痛みがある場合や痛みがいつまでも続く場合は、すぐに職員にお知らせください。
- 採血中に気分不良やめまいを起こした場合は、すぐに職員にお知らせください。また、採血後に同様の症状を起こした場合は転倒を防止するために、すぐにしゃがむか横になってください。
- 皮下出血がある場合は、我慢せずにお知らせください。
- 採血針を刺した箇所に針跡が残ることがあります。

献血していただいた血液は

- 検査を実施し、血液製剤の基準に適さないと判断した場合は輸血に使用しません。
- 血液の一部は少なくとも11年間冷凍保存し、輸血副作用・感染症などの調査のために使用します。

献血後の過ごし方

献血後は、水分を補給して休憩（少なくとも10分以上）をおとりください。
電車でお帰りの際、転落防止のため駅のホームでは線路の近くで電車を待たないでください。
(気分不良、失神などはじっと立っている時に発生しやすいといわれています)

<献血当日は次のようなことをお願いいたします>

休憩



特に乗り物を運転される場合は、
その前に十分な休憩（30分以上）
をおとりください

水分補給



ジュース（スポーツドリンク）、
お茶などで十分補給してください

- ・トイレ…採血直後の排尿は座位で行なってください
- ・エレベーター・階段…使用する際は、特に注意してください
- ・入浴…2時間以内の入浴と当日のサウナは避けてください
- ・飲酒・喫煙…献血直後は避けてください
- ・スポーツ…水泳、マラソンなど激しいスポーツは避けてください
- ・重労働…採血側の腕に強い力がかからないようにお願いします

~~・喫煙・飲酒
・スポーツ~~



気分が悪くなったら

緊張感の強い場合やその日の体調によっては、採血の数時間後、まれに気分が悪くなったりめまいがすることがあります。そのような場合はすぐにしゃがむか、横になってください。

通常は頭を低くして30分程度安静にするだけで軽快します。

また、採血後の腕の痛みなど何かご心配なときは、すぐに血液センターまでご連絡ください。

+ 鹿児島県赤十字血液センター TEL 099-257-3141

移動採血車の運行予定や献血ルームのご案内などはホームページでもご覧いただけます。

(<http://www.bc9.org>)

献血ルームのご案内

・献血プラザかもしけクロス (099-257-3141) ・献血ルーム 天文館 (099-222-6511)

献血後のお知らせ（検査結果）

献血いただく前に、検査結果通知のご希望の有無をお伺いしています。（結果は献血後1ヵ月以内に親展にてお届けします）

（1）通知している検査項目

- 血液型検査、生化学検査
- 血球計数検査

（2）検査で異常を認めた場合に通知する項目

- B型、C型肝炎ウイルス検査
- 梅毒検査
- HTLV-1検査
- T. cruzi*（シャーガス病）検査（シャーガス病の安全対策の対象者のみ）

※エイズウイルス（HIV）検査については、通知していません。

より安全な輸血医療のために

検査目的の献血をお断りする理由

エイズウイルスや肝炎ウイルスの感染初期には、強い感染力を持つにもかかわらず、最も鋭敏な検査方法を用いても検出できない期間があります。

エイズウイルスなどの感染に不安があり、献血時の検査により確認しようとする、患者さんにウイルスを感染させてしまうことがあります。

エイズや肝炎は主に性交渉により若い世代に感染が広がっています

エイズウイルス（HIV）や肝炎ウイルス（HBV、HCV）を保有している人との性交渉や、注射器を共用し麻薬などを使用した場合に、エイズや肝炎のウイルスに感染する恐れがあります。

下記はいずれもこれらの危険性が高い行為です。過去6ヵ月以内に該当する場合は献血いただけません。

- (a) 不特定の異性または新たな異性との性的接触
- (b) 男性どうしの性的接触
- (c) 麻薬、覚せい剤を使用した
- (d) (a) ~ (c) 該当者との性的接触

エイズ検査施設

エイズ検査をご希望の方は最寄りの保健所にお問合せください。
保健所ではエイズ検査を匿名、無料で受けることができます。

「**HIV検査・相談マップ**」(<http://www.hivkensa.com>)

では、保健所などの検査機関の情報が掲載されています。



何らかの病気や感染症にかかっているとわかった場合はご連絡ください

献血後、健康診断や医療機関などでB型・C型肝炎の疑いがあると診断された場合等には、血液センターまでご連絡ください。（又は主治医に献血した旨をお伝えください）

ご協力ください

- ・輸血を受けられた患者さんについて感染症などの報告があった場合、その原因調査を行うため、また、献血者ご自身の健康管理のため、検査用血液の採血を再度お願いする場合があります。
- ・献血された方にコールバック用紙「今一度、ご確認をお願いします！」という印刷物をお渡しします。
これをよくお読みになって、思い当たる場合は、必ず献血当日中に血液センターへお電話ください。